



日本統計学会 会報 2024.4.30 No. 199

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—川崎 能典(理事長) / 小山 慎介(庶務理事)
小西 葉子(広報理事) / 浦沢 聡士(広報委員)
塚本 高浩(広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1. 巻頭随筆：データサイエンスの基礎教育
……………狩野 裕… 1 | 5. 統計検定合格者の声……照井伸彦・川崎能典… 7 |
| 2. 2024年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）
……………藤木美江・橋口博樹・地道正行… 3 | 6. 理事会・委員会報告（2024年2月17日開催）… 9 |
| 3. 第18回日本統計学会春季集会の報告
……………川崎能典・佐藤忠彦・塚原英敦… 4 | 7. 社員懇談会報告（2024年3月8日開催）………13 |
| 4. 統計検定成績優秀者……照井伸彦・川崎能典… 7 | 8. 博士論文・修士論文の紹介……………14 |
| | 9. 学会事務局から……………15 |
| | 10. 投稿のお願い……………16 |

1. データサイエンスの基礎教育

狩野 裕（同志社大学）

Google Trends で「データサイエンス」を引いてみると、2016年あたりから線形的に増加していることがわかる。日本で最初にデータサイエンス (DS) 学部が滋賀大学に設置されたのが2017年4月。DSのキーワードとして、お宝発見、価値創造、課題解決、リテラシーなどがよく挙げられる。これらのキーワードは、伝統的統計学においても、その応用として視野に入ってはいるが、強調して来なかったのは事実である。たとえば、50年以上も前に、木村捨雄氏は統計教育の目標を「調べる－あつめる－まとめる－よみとる－価値づける」と言っている。

バックグラウンドが統計学や数理科学に限らず多くの専門分野から DS 業界へ参入し、データサイエンティスト (DS人) を自称する人も多い。DS人には多様性が必要であり、すべてのDS人が統計基礎理論に習熟していなければならないとは言わないが、統計解析のピンホールに落ち込まないためにも、統計家とコミュニケーションをとるた

めにも最低限の基礎的知識は必要である。

数学分野では、仮定が満たされないかもしれないときは前に進めない。それは当然のことでそれでよい。ではその他の諸科学（非自然科学を含む）や工学ではどうか。現実の問題をいくつかのパートに分割し、それぞれのパートについて原因と結果等の関係を同定しそれらを積み重ね、問題になる現象を理解し制御することで問題を解決しようとする（要素還元主義）。ある関係が運動方程式等の数学的道具によって正確に説明できる場合もあるが、それが近似的にしか成立しない場合（微積分も実は極限という近似である）、それに確率要因が混入していると考えざるを得ない場合、関係を同定できず入力と出力だけを眺めた統計的関係しか得られない場合などがある。もちろん部分的な理解の総合がシステム全体を記述する保証はないし（ホーリズム）、統計的には、誤差の累積や第三変数の存在が要素還元を破壊するかもしれない。そこで最終段階では、得られた近似シス

テムがその問題を解決するだけの精度を持つかどうかを実証的に確認することになる。

データ解析は、他の諸科学と同様、数理統計の理論を適用するための仮定がすべて満たされた下で実行されているわけではない。数学のように厳密性を要求すると応用場面がなくなってしまう。多少仮定が崩れていても有用な結果が得られ、諸科学はそういった応用の仕方ではシブリンを鍛え上げてきた。George E. P. Box の格言「All models are wrong; but some are useful」は有名である。厄介なのは、分野の特性やデータの特徴によって、どの仮定に目を瞑らざるを得ないかが異なることである。それが理解されていないが故、分野の異なる研究者・実務家はしばしば互いの統計解析法を批判し合う。

具体的を挙げる。社会学では母集団の規定がきびしく標本はそこからのランダムサンプルを理想とするが、心理学や生理学では標本は近くにいる学生たち、ということも多い。一方、心理学や生理学では、ベースの理論、仮説設定、標本抽出・実験、統計解析という流れを遵守しようとするが、社会学・経済学ではデータは別途採取されており、仮説はその後に設定することがある。臨床医学や臨床薬学は心理学等に倣うが、世界レベルで実験・調査・分析自体を事前に登録してから実施することが求められている。それは有意な結果のみが出版され易いという出版バイアスを緩和するためである。機械学習とDSにもかなりの違いがあり、機械学習では確率論をベースにした推測というよりも大規模データを探索型で分析することが多いのに対して、DSでは、再現性の確保という意味もあり、確率をベースにした仮説検証型の分析もかなりの数にのぼる。こういった違いはなかなか教科書等では解説されず、DSは経験職であり速成することが難しいと云われる原因になっている。大阪大学の大学院副プログラム「データ

科学」では6個のコースを用意し、受講生の専門から遠い分野におけるデータを扱う統計学をも履修できるようにしている。

数学的に成り立たない命題であっても病的な反例 (pathological counterexample) しか挙がらないとすれば、現象の理解やデータ解析においては神経質になる必要はないかもしれない (反論はあろう)。一方で、仮定を間違えると正反対の結論が得られてしまうことがあり、この場合は仮定の重要性は大いに強調されてよい。初等統計学でいえば、たとえば、母平均の相等性の検定において、対応がない (独立二母集団, 被験者間要因) 場合と対応がある場合 (ペアデータ, 被験者内要因) の区別である。よくある食い違いは正規母集団からの一組の無作為標本に対して、独立二母集団と考えると t -検定すると非有意、対応があると考えると t -検定すると有意になることであり、統計手法は仮定 (データ採取状況) によって適切に選択しなければならない。この事実は、対応のある状況でデータを採取できるのならば、このデザインの方がより高い検出力を有することを示唆する。このような数値例は容易に作成できる。ということはしばしば生起することを意味し、対応の有り無しは常に認識しておかなければならない重要な仮定ということになる。母比率の比較においても対応の有り無しの区別は重要である。注意しておきたいのは、比率の場合、対応のある状況の検出力がより低いことで、正規母集団の場合と逆になる。この事実は、検定統計量の分母を比較すれば容易に理解できる。統計実務家 (DS人) に統計理論の重要性を理解してもらうためには、単に「数学的に必要だ」という説明だけでなく、仮定が破れた時の無視できないトラブルを (病的な例でなく) 説得的な例を用いて説明することである。この意味でもDS教育は教材開発が重要であるといえよう。

2. 2024年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）

運営委員長 藤木 美江（愛知淑徳大学）
実行委員長 橋口 博樹（東京理科大学）
プログラム委員長 地道 正行（関西学院大学）

2024年度統計関連学会連合大会（東京理科大学神楽坂キャンパスで開催予定）について進捗をご報告申し上げます。第一報では、開催方式を検討中とアナウンスさせていただきましたが、「ハイブリッド方式（現地参加と、オンライン会議ツールによるオンライン参加）での開催」として準備を進めています。

初日9月1日（日）はチュートリアルセッションと市民講演会、2日目以降（9月2日（月）～5日（木））は一般講演や企画セッションなどを開催いたします。

この第二報では併せて、企画セッションの公募をご案内いたします。以下のURL（QRコード）が企画セッションの申込フォームになります。

<https://forms.gle/KZtj7ZMqS6bJXFec9>

今後、連合大会のホームページに関連情報や詳細情報を随時掲載していきますのでご覧ください。トップページは3月下旬に公開予定です。



1. 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッション等を担当しています。統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

企画セッションに関しては、今回もこれまで通り公募します。広い意味で統計学の発展への寄与、統計学の社会的使命に関わる企画等のご提案を歓迎します。なお、応募が多数の場合にはプロ

グラム委員会で調整させていただくこともありますので、ご了承ください。

企画セッションの申込に際しては、

- 1) セッションのテーマとねらい
- 2) オーガナイザーの氏名・所属・連絡先
- 3) 座長の氏名・所属
- 4) 予定講演者の氏名・所属・演題名・使用予定言語（日本語または英語）

を上記連合大会ホームページからリンクされているフォームにてお申し込みください（メールによる申し込みは受け付けておりませんのでご注意ください）。

企画セッション1件あたりの時間枠は120分を予定しています。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。

企画セッション応募締切

2024年4月1日（月）17：00 [厳守]

企画セッション問い合わせ先（メールアドレス）
kikaku2024 (at) jfssa.jp (at) を@に置き換えてください。

2. その他の準備状況のご報告

2.1 コンペティションセッションについて

「コンペティション講演」に関わる事項は次の通りです。学会会場にて、対面にて実施されます。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は2024年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生を含む）、または、講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢を問いません）です。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に学会会場にて口頭発表する方です。なお、コンペティション対象者は、

講演申込時に主催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、入会申請中の方も認めます。プログラム委員会から各学会事務局に会員照会し、会員（入会申請中）でないことが判明した場合は、コンペティションへのエントリーを取り消しますので、十分にご注意ください。コンペティション応募総数は年々増加傾向にあり、プログラムを組むのが難しくなっています。したがって、今年度は申込順でコンペティション参加件数を制限することがあります。審査は、講演報告集の内容と当日の口頭発表に対して、各学会から選出された審査員による総合的な評価で行います。

2.2 チュートリアルセッション、市民講演会、ソフトウェアセッションについて

9月1日にチュートリアルセッションおよび市

民講演会を開催予定です。多くの市民や研究者の方々にとって興味を持っていただける内容を企画中です。皆様の積極的な参加をお待ちしています。また、ソフトウェアセッションについても計画しています。詳細は、2024年4月下旬発行予定の第三報でお知らせいたします。

2.3 一般講演申込、報告集原稿提出、事前参加申込

一般講演や事前参加の申込、報告集原稿提出はホームページ上で行います。一般講演申込の締切を2024年5月中旬（予定）とし、それ以降、報告集原稿提出および事前参加申込の締切を設定します。確定した期日や具体的な企画は、第三報でお知らせいたします。

3. 第18回日本統計学会春季集会の報告

川崎 能典（日本統計学会理事長）
佐藤 忠彦（企画・行事副委員長）
塚原 英敦（実行委員長）

第18回日本統計学会春季集会が2024年3月9日（土）に成城大学（東京都世田谷区）を会場に、一部の講演を除いては遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催されました。今回の集會も、招待講演による4つの企画セッションと1つの基調講演、そしてポスターセッションが企画されましたが、新型コロナウイルス感染症の5類指定以降後初の春季集会ということで、ポスターセッションは対面方式のみの実施となりました。

午前は、3号館2階322教室で開会式開催の後、2つの会場に分かれ、2セッションが並行して実施されました。322教室では、海外からの2名の講演者を招いての国際セッション“Some new developments in multivariate analysis”（オーガナイザー：二宮嘉行氏、統計数理研究所）、321教室では「Rユーザーのための機械学習チュートリアル（オーガナイザー：川崎能典、統計数理研究所、

地道正行氏、関西学院大学）」がそれぞれ実施されました。

ポスターセッションは、3号館32B～32Dを会場に、昼休みのコアタイムを第1部、第2部に分けて開催され、大学院生、若手研究者による計24件の発表がありました。32A会場には協賛企業1社による展示も行われました。

午後は、同じく3号館2階の2つの会場で2セッションが並行して実施されました。321教室では「複数の企業と大学の連携（産産学連携）によるデータサイエンスを用いた実学取組み（オーガナイザー：竹村彰通氏、滋賀大学）」、321教室では統計学会和文誌特集号に基づく「生存時間解析・イベントヒストリー分析（オーガナイザー：江村剛志氏、統計数理研究所）」がそれぞれ実施されました。

午後後半は、国際関係担当理事荒木由布子氏

(東北大学), 鎌谷研吾氏(統計数理研究所)のオーガナイズによるプレナリーセッションとなり, 来日された Arnaud Doucet 氏 (University of Oxford & Google DeepMind) による “From Denoising Diffusions to Schrodinger Bridges: Generative Modeling and Inference” と題する基調講演が, 322教室で行われました。

最後に, ポスターセッション表彰式と閉会式が行われました。優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は鬼塚貴広氏(広島大学大学院), 別府健治氏(大阪大学大学院)の2名に, 学生優秀発表賞は田川颯人氏(東京大学大学院), 西森勇人氏(東京大学大学院), 吉田悠夏氏(横浜国立大学大学院)の3名に授与され, 照井伸彦会長より表彰されました。また, 樋口知之氏(一般財団法人統計質保証推進協会統計検定センター長)より, 優秀発表賞と学生優秀発表賞の受賞者に対して統計検定センター長賞が贈呈されることが告知されました(賞状・副賞は統計検定センターから後日送付)。なお, 今年の春季集会の参加登録者は現地参加166名, オンライン参加登録51名の計217名でした。

今回の春季集会も多くの発表者と参加者に恵まれ, 盛会のうちに終了することができました。本集会を成功裏に終えることができたのは, 開催校の成城大学の関係者の方々を始め, 所掌外の業務にも協力頂いた学会理事・委員の皆様, 急な依頼にもかかわらずポスターセッションの表彰審査をお引き受けいただいた会員の皆様のおかげです。末筆ながら感謝申し上げる次第です。

春季集会 URL :

<https://jss2024spring.ywstat.jp/>

ポスターセッション優秀発表賞

受賞のことは

鬼塚 貴広 (広島大学大学院)

この度は, 優秀発表賞という栄誉ある賞に選出していただき誠にありがとうございます。大会運営の皆様, 先生方に感謝申し上げます。そして,

日頃からご指導いただいている橋本真太郎先生にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本発表では, バイズ統計の観点から新たに外れ値に頑健なガウシアングラフィカルモデルを提案しました。特に, 提案したガンマダイバージェンスに基づく事後分布が十分大きな外れ値に対して頑健であることを理論的に証明し, 事後分布の計算のための効率的なアルゴリズムを構成しました。また, 数値実験と実データ解析において既存手法との定量的な相違点に関して紹介させていただきました。

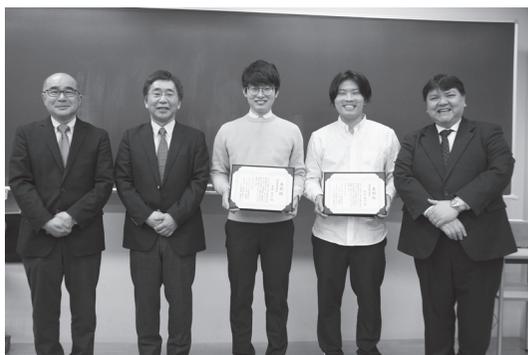
発表では, 多くの先生方からご質問やコメントをいただきましたことを改めて御礼申し上げます。今回の受賞を励みに, 今後もより一層研究に邁進して参りたいと思います。

受賞のことは

別府 健治 (大阪大学大学院)

この度は優秀発表賞にご選出いただき大変光栄に存じます。このような機会を準備してくださった先生方, 審査に携わってくださった先生方に心より感謝申し上げます。また日頃より丁寧にご指導いただいている森川耕輔先生, 共に研究に関する議論をしてくださった相田航さんにもこの場を借りて御礼申し上げます。

本報告では, 標本調査における結果変数に欠測値を含むデータに対し, セミパラメトリック漸近有効性を有する二重頑健推定量の提案と多重頑健性への拡張を報告させていただきました。また提



授賞式の様子: 左より, 樋口知之統計検定センター長, 照井伸彦会長, 鬼塚貴広氏, 別府健治氏, 川崎能典理事長

案した経験尤度法に基づく推定方法を拡張することで、外部研究等から得られる要約統計量が利用可能な状況でも効率的な推定が可能であることを報告させていただきました。発表では多くのコメントをいただき、大変勉強になりました。今回の受賞を励みに、自身の研究にこれからもより一層邁進してまいります。

ポスターセッション学生優秀発表賞

受賞のことは

田川 颯人（東京大学大学院）

この度は学生優秀発表賞をいただき、大変光栄に思います。このような機会を準備して下さった大会運営の皆様、および審査をして頂いた先生方に心より感謝申し上げます。また、日頃より丁寧に指導していただき、研究の方向性に対して適切にアドバイスいただいた指導教員の坂口翔政先生にもこの場を借りて御礼申し上げます。

本発表では近年盛んに研究されている因果推論の中でも Synthetic Control という手法に対して、空間自己回帰モデルを導入することで SUTVA を仮定せずとも処置効果とコントロール群に対するスピルオーバー効果の識別が可能となることを示し、その推定方法まで提案しました。報告に際しては多くのご質問やご意見をいただき、大変嬉しく思います。今回の受賞を励みに、更に良い研究ができるようより一層精進していきます。

受賞のことは

西森 勇人（東京大学大学院）

この度は学生優秀発表賞をいただき、大変光栄に思います。大会運営にご尽力くださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、日々ご指導いただいている松田孟留先生にこの場を借りて御礼申し上げます。ポスター発表では多くの方から質問やコメントをいただき、大変有意義な議論をすることができました。

本発表では、Wasserstein 計量に関する情報量不平等式についていくつかの結果を提示しました。特

に、先行研究にて報告された Wasserstein-Cramer-Rao の不等式について、その拡張である Wasserstein-Bhattacharyya の不等式を与えました。また、それらを Fisher 計量の結果と比較することで Wasserstein 統計の情報幾何と従来の情報幾何の類似点や相違点について考察しました。今回の受賞を励みに、これからもより一層研究に邁進して参りたいと思います。

受賞のことは

吉田 悠夏（横浜国立大学大学院）

この度は、学生優秀発表賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。審査していただいた先生方、大会を運営していただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。そして日頃より熱心にご指導いただいている黒木先生にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。また、共著者の Mohan 先生にも丁寧に研究指導をしていただきました。心より感謝申し上げます。

本発表では、共変量がとる値ごとに因果関係を測る指標の大きさが異なるという効果の異質性について、未観測交絡因子による効果の異質性を、未観測交絡因子を観測することなく、効果の異質性の存在を評価するための基準と定量的な大きさを評価するための効果回復法について報告させていただきました。ポスター発表では、多くのご質問、コメントをいただき大変勉強になりました。今回の受賞を励みに、さらに良い研究ができるようこれからも精進してまいります。



授賞式の様子：左より、樋口知之統計検定センター長、照井伸彦会長、吉田悠夏氏、田川颯人氏、西森勇人氏、川崎能典理事長

4. 統計検定成績優秀者

照井 伸彦（日本統計学会会長）
川崎 能典（日本統計学会理事長）

2023年11月19日に統計検定が行われました。以下に、各試験種別の合格者のうち、成績優秀者がかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

1級「統計数理」

最優秀成績賞（S）：岡徹，梶本敬太，桑原慶太，竹内佑樹，田邊航輝，丹治直人，恒川翔，出口海聖，中川祐希，本多智揮，松本拓哉，森田潤一，山根正暉，吉田弦輝

優秀成績賞（A）：赤澤祥貴，阿部文典，石塚峻斗，上園太一，大澤裕一，大曲裕輔，岡部泰三，川西建，木下晴登，坂本陸，白石歩，杉本賢祐，鈴木渉，高橋宏典，高松郁菜，竹田勝児，西山卓也，藤平燎，水谷優汰，穆佐飛来，安良興，若林

建汰

1級「統計応用」

最優秀成績賞（S）：青山龍平，臼井耕太，大井駿太，大澤裕一，梶本敬太，川口風咲，佐藤篤樹，出口海聖，中島琢登，西田光輝，早川大地，藤田勇樹，本多智揮，守谷祐一

優秀成績賞（A）：阿部文典，上園太一，岡徹，岡部泰三，岡本直大，加藤礼，木村友貴，清原貫太，工藤才造，桑原慶太，小針成敬，白石歩，杉本賢祐，高須正太郎，高橋宏典，高山晃，田中仁一郎，谷口智隆，種村賢飛，玉腰勇司，丹治直人，遠山悠大，富張聡祥，中川祐希，平野里美，宮崎陽輔，安良興，山川鯉城，吉田佑樹，渡邊泰平

5. 統計検定合格者の声

照井 伸彦（日本統計学会会長）
川崎 能典（日本統計学会理事長）

統計検定1級「統計応用」

白石 歩さん（日本IBMシステムズ・エンジニアリング株式会社，静岡大学客員准教授）

「統計学のココロがわかってきた」

大学時代は理論物理学を専攻し，現在はIT企業にてデータサイエンティストに従事しています。学生時代は，ごく基本的な統計学について実験データの整理のために必要ということで，大学1年次に学んだ程度で，深い理論的な勉強はしたことがありませんでした。

クライアントのデータ分析を行うようになってから，統計学の基本的なことを理解していないと

思い，数年前に統計検定2級を受験し合格しました。しかし，この時点では統計学の代表的な用語や計算の手続きを学ぶことができませんでしたが，データ分析の実務レベルでは，それらの妥当性の理解が及んでいないと感じました。より深い統計学の理解のために統計検定1級を受験を決意し，数理論計学の学習に取り掛かり始めました。

学習においては多くの方が書かれているように，久保川先生の『現代数理統計学の基礎』を中心に行いました。他にも様々な教材や動画なども活用し，総合的な理解を深めました。手前味噌ではありますが，「統計検定1級の勉強の仕方」【2023

年末版】という内容をブログに書いています。役に立った教材や使い方を解説していますので、学習の参考にしていただければと思います。

https://qiita.com/Ayumu_walker/items/461705df5afd8eedf692

数理統計学の勉強を行ったことで、それまで手続きだけを覚えていた数式の理論的な意味を理解することができたため、統計学のココロがわかってきたと感じています。この理解ができたことで、統計数理、統計応用（理工学）を両方とも優秀賞で合格をいただけたと思います。

統計検定1級の学習を通じて、本業のデータ分析に活かせるようになったことだけでなく、大学で担当しているデータサイエンスの授業の中でもアカデミックな観点も踏まえて学生に説明ができたようになったため、より説得力のある授業ができていていると感じています。

統計検定1級「統計応用」

守谷 祐一さん（株式会社NTTデータ）

「良問・興味深い問題が多い統計検定」

私は「データ活用コンサルタント」として、お客様企業の働き方をデータドリブンに変革するためのご支援をしています。具体的な支援業務としては、DX実現のロードマップ策定や、データ活用基盤の構築等が中心ですが、自身もデータを分析・活用して「火付け役」となる事例を創出できるよう、最先端の技術に加えて、汎用的な統計手法についても勉強を継続しています。統計検定の過去問は良問が多く、これまでも何度か解いていたのですが、今回本腰を入れて勉強しようと思立ち、1級を受検しました。

受検勉強では、過去問演習を主軸とし、解答作成時には「なぜこの解法なのか」「なぜこの統計量を使うのか」まで深掘りしました。具体的には、例えば分散分析では、「F値の分子と分母はどのような統計量なのか」「なぜこの値がF分布に従うと言えるのか」「F分布とカイ二乗分布はどのような関係なのか」等、高校生に説明することを想定して、説明できない箇所、曖昧な箇所は、

適宜、参考書やブログ等を頼りに理解を補強しました。

本番の試験も興味深い問題が多く、楽しみながら解き進めることができました。手応えもあったので、評価Sをいただけてホッとしています。実業務においては、そもそもデータを活用・取得する以前の課題も散見されますが、小さな成功を積み上げて、少しずつでも着実に、お客様企業、ひいては日本企業全体の業務変革に取り組んでいきたいです。

統計検定1級「統計数理」

森田 潤一さん（高校教員）

「高校教員にとって統計学の指導力の向上は喫緊の課題」

数年前、久しぶりに高校数学Ⅲの授業を担当したのを機に、計算力のスピードと正確さの確認のために数学検定を受験しました。その際、選択問題に統計学の問題があり、その学習を機に統計学を深く学びたいと思うようになりました。書籍でわからない部分をネットで調べる中で、統計検定の存在を知り、それ以来学習の目標としています。

幸い2度目の受験で統計数理は合格できましたが、計算量の多さと出題分野の広さを考えると奇跡としか言いようがないと思っています。残念ながら、統計応用は不合格だったので、現在は品質管理や医療統計学などを勉強中です。

高校生にとって統計学を学ぶ必要性がますます高まっている中で、教員にとっても統計学の指導力の向上は喫緊の課題です。人に分かりやすく教えられる力が本当の学力ではないかと思っています。合格を出発点として更に研鑽を積み、統計学の魅力を高校生や同僚教員に発信していきたいと思っています。

統計検定1級「統計数理」

竹内 佑樹さん（本田技研工業株式会社）

「丁寧に統計学に向き合う経験」

データ分析を担当する部署に配属されたこと

が、統計学を本格的に学ぶきっかけとなりました。業務で扱う課題に対して適切な分析ができるか不安があったため、データ分析の専門部隊としてデータを正しく理解し活用できる力を身につけたいと思い統計検定の受験を決めました。

勉強方法については、過去の合格体験記を参考にし、久保川達也先生の「現代数理統計学の基礎」を中心に学習を進めました。はじめは読み進めるのがやっとなりましたが、時間を惜しまずに各定理や命題を手を動かし証明することで、計算力とその背後の考え方を深く理解できたと感じます。有名な書籍であることから、著者のサイトも含めweb上にヒントが多くあり、独学でも学習を進めやすかったです。

ビジネスにおいて、統計的な分析結果に基づく意思決定の場面は多く、適切なアプローチで正しく分析結果を読み解く、伝えることは非常に大事であると思います。統計検定では、単に計算力を問うだけでなく、その考え方や背景知識が求められるため、各問題に向き合うことで本質の理解に近づくことができたと感じます。丁寧に統計学に向き合う経験は業務だけでは疎かになりがちであり、統計検定を受験したからこそ得られたものだと思います。今回の経験を活かしてビジネスにおける課題解決に貢献できる分析スキルを今後も磨き上げていきたいです。

統計検定1級「統計数理」

川西 建さん（株式会社インテージ）

「統計学の基礎となる部分について理解を深めることができた」

市場調査会社でデータサイエンティストとして働いています。学生時代は統計学や計量経済学を専攻しており、大学院進学が決まったことをきっかけに、統計学の基礎を身につけることを目標に1級受験を始めました。

勉強に使用したのは主に「竹村彰通著、現代数理統計学」「久保川達也著、現代数理統計学の基礎」「野田一雄・宮岡悦良著、入門・演習 数理統計」の3冊と公式テキストと過去問です。範囲の学習をある程度終えてからは演習を中心に行い、そこから詰まった部分の復習という流れで勉強しました。何度か不合格になったのですが、この度ようやく合格することができました。学生時代から一つの目標としていたので合格できて大変嬉しく思っています。

過去問や演習問題を解くといった統計検定の学習を通じて、今まで曖昧になっていた各種確率分布の特徴や確率分布間の関係、仮説検定とのつながり等、統計学の基礎となる部分について理解を深めることができたと思います。また、あまり体系的に学ぶことができていなかった微積分や線形代数についても、統計学でよく使われる部分を中心に学べたことも非常に有意義でした。

今後は統計検定の勉強を通じて身につけた知識を基に、実務や研究での利用を念頭に置いたより実践的な力を身につけられるよう勉強を継続していきたいと思っています。

6. 理事会・委員会報告（2024年2月17日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2024年2月17日（土曜日）

午後1時00分～午後1時49分

場所：東京理科大学経営学部5階会議室

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID: 838 1343 9729）

理事の総数 14名 出席理事の数 13名

監事の総数 3名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：照井伸彦会長、川崎能典理事長、小山慎介（庶務）、伴正隆（庶務）、吉田靖（会計）、増田弘毅（JSD）、原尚幸（会誌編集和文）、小西葉子（広報）、高部勲（大会・企画・行事）、荒木由布子（国際）、鎌谷研吾（国際）、瀬尾隆（渉外）、植木優夫（渉外）

(以上13名, 括弧内は役割分担)

監事：大森裕浩, 樋口知之

第1議案 常設委員会における委員の追加について

川崎理事長より, 資料に基づき, 常設委員会の委員の追加を提案がなされ, 審議の結果, 承認が得られた。

第2議案 2024年度事業計画について

川崎理事長より, 資料に基づき, 2024年度事業計画の提案がなされ, 審議の結果, 承認が得られた。

第3議案 2024年度予算について

川崎理事長より, 資料に基づき, 2024年度予算の提案がなされ, 吉田会計理事により補足説明が行われた。審議の結果, 承認された。

第4議案 社員総会招集の件

照井会長より, 社員総会開催に関する提案がなされ, 承認が得られた。また, 学会賞各章受賞者の承認を目的とした臨時社員総会開催についても承認が得られた。

1. 日時 2024年6月1日(土曜日)午後1時30分から
2. 場所 東京理科大学経営学部5階会議室
3. 会議の目的事項

(1) 社員総会における通常の審議

第5議案 会員の入退会

川崎理事長より, 回収資料に基づき入退会希望者が紹介され, 審議の結果, 承認が得られた。

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2024年2月17日(土曜日)

午後1時49分～午後2時46分

場所：東京理科大学経営学部5階会議室

ハイブリッド出席型バーチャル委員会として実施

Zoom (ミーティング ID: 838 1343 9729)

出席：理事13名, 監事2名, 委員0名, 計16名

照井伸彦会長, 川崎能典理事長, 小山慎介, 伴正隆, 吉田靖, 増田弘毅, 原尚幸, 小西葉子, 高部勲, 荒木由布子, 鎌谷研吾, 瀬尾隆, 植木優夫, 大森裕浩(監事), 樋口知之(監事)

欠席：竹内光悦, 山下智志(監事)

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

増田委員長より, JJSD の編集状況について報告がな

された。

2. 和文誌編集委員会

原委員長より, 和文誌の編集状況について報告がなされた。

3. 大会委員会

川崎理事長より, 資料に基づき, 2024年度と2025年度の統計学会連合大会の準備状況について報告がなされた。

4. 企画・行事委員会

川崎理事長より, 資料に基づき, 第18回と第19回の春季集會準備状況について報告がなされた。

5. 庶務委員会

小山理事より, 以下の後援の承諾について報告がなされた。

・全国中高生 AI・DS 探究コンペティション2023

主催：JDSSP 高等学校データサイエンス教育研究会,
兵庫県立大学

6. 広報委員会

小西委員長より, 会報の発刊等に関する活動報告がなされた。

7. 国際関係委員会

荒木委員長より, 春季集會での基調講演の準備状況について報告がなされた。

8. 渉外委員会

植木委員長より, 資料に基づき, 令和5年度 JJSD 科研費申請の報告がなされた。

川崎理事長より, 日本経済学会連合「英文年報」44号の編集委員および執筆委員の選出依頼があり, それぞれ坂野慎哉先生と西郷浩先生を選出した旨, 報告がなされた。

9. 質保証委員会

瀬尾委員長より, 統計質保証推進協会の活動と, 統計検定1級で発生した合否判定の誤りについて報告がなされた。

10. 統計教育委員会

小山理事より, 資料に基づき活動報告がなされた。

11. その他

照井会長より, 以下3件の要望書発行の依頼に対応したことが報告された。

・一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究

一般社団法人 日本統計学会
2024 年度事業計画
(2024.4.1~2025.3.31)

- 第 20 回日本統計学会統計教育賞
- 第 18 回日本統計学会研究業績賞
- 第 17 回日本統計学会出版賞
- 第 38 回日本統計学会小川研究奨励賞
- 第 6 回細谷賞

I. 出版編集事業

1. 和文誌の発行
和文誌 2 号[第 54 巻シリーズ] 第 1 号(9 月)、第 2 号(3 月)]を発行する。
2. Japanese Journal of Statistics and Data Science の編集への参加・協力
3. 会報の発行
No.199 (4 月)、No.200 (7 月)、No.201 (10 月)、No.202 (1 月) を発行する。
4. 統計学に関わる書籍を刊行する。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第 92 回大会の開催
2024 年 9 月 1 日~5 日の 5 日間(わたり、東京理科大学神楽坂キャンパスにおいて開催する。
統計関連学会連合大会の一環として開催する。
2. 春季集会の開催
2024 年 3 月上旬に第 19 回春季集会を開催する。
3. 研究分科会の活動
現在活動中の以下の分科会に加え、新規に活動を開始する分科会を随時募集する。

- ・統計教育分科会
- ・計量経済・計量ファイナンス分科会
- ・女性統計家・データサイエンス育成分科会
- ・スポーツデータサイエンス分科会

4. タイバレーティの推進
臨時委員会「多様性推進特別委員会」により、学会における多様性の推進に努める。
5. 統計関連学会連合の事業推進に協力する。
6. 国際学会、国際シンポジウムに協力する。
・台湾統計学会、韓国統計学会、日本統計学会共同開催の国際セッションへの協力
7. 会員に有益と思われる学会やシンポジウムを後援する。
8. 他の組織が行う員選考に対して学会推薦を行う。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与
学会活動の活性化促進のため、以下の賞を会員等に授与する。
第 20 回日本統計学会賞
第 4 回日本統計学会中村隆賞
第 20 回日本統計学会統計活動賞

2. 各種委員会の活動
年 2 回社員総会を開催する。
年 4 回理事会を開催する。
年 1 回役員・代議員協議会を開催する。
年 1 回春季集会準備会議を開催する。
その他の各種委員会を適宜、開催する。
3. 2025-2026 年度代議員、会長、理事長選挙を実施する。
4. 広報活動の充実
メールマガジンの使用やホームページの充実により、各種情報発信を促進する。
日本統計学会公式 Youtube チャンネルを通じて、講演動画を会員向けに配信する。
5. 入会者の拡大
春季集会等の機会を利用し、若手の研究者の拡大を促進する。
統計検定の合格者を対象とし、統計利用者の拡大を促進する。
会員限定の情報や講演動画の配信を行い、企業に所属する実務家も含めた多様な新規の入会者を拡大する。

IV. 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施協力
一般財団法人統計質保証推進協会が実施する「統計検定」の認定団体として、統計検定に関わる書籍を刊行する。
2. MOOC による統計学講座の提供
MOOC による統計学の講座を開講するとともに、講座に関わる書籍を刊行する。
3. 統計教育関連事業の推進
小中高および大学における統計教育に支援・協力するとともに、集会の開催や後援を行う。また統計教育人材育成に貢献する。また統計教育の重要性を発信する。

一般社団法人 日本統計学会 2024年度 予算書 (2024年7月3日作成) (単位:千円)

23年度予算	24年度予算	備考
1. 事務経費等の節減	24年度予算	備考
一般経費	▲ 1,384	▲ 1,455
学芸活動助立金	▲ 0	0
60周年学芸委員会	▲ 350	▲ 210
75周年学芸委員会	▲ 30	▲ 30
100周年学芸委員会	▲ 280	▲ 280
ICP基金	▲ 0	0
小川基金	▲ 120	▲ 120
中川基金	▲ 230	▲ 230
1. 事務経費の増大	17,715	12,787
委託料	10,935	10,600
委託料(正会員)	9,314	9,200
委託料(正会員)	15	15
委託料(正会員)	845	845
委託料(正会員)	780	780
委託料(正会員)	4,330	0
委託料(正会員)	500	0
委託料(正会員)	995	1,061
委託料(正会員)	110	110
委託料(正会員)	110	110
委託料(正会員)	129	150
委託料(正会員)	20,941	18,226
印刷費	6,900	8,150
委託料(54歳以上)	3,000	5,000
委託料(54歳以上)	2,000	2,000
委託料(54歳以上)	400	400
委託料(54歳以上)	250	0
委託料(54歳以上)	350	350
委託料(54歳以上)	3,440	3,210
委託料(54歳以上)	800	800
委託料(54歳以上)	▲ 350	▲ 350
委託料(54歳以上)	20	30
委託料(54歳以上)	1,200	1,200
委託料(54歳以上)	2,320	2,320
委託料(54歳以上)	300	300
委託料(54歳以上)	480	480
委託料(54歳以上)	170	150
委託料(54歳以上)	50	50
委託料(54歳以上)	500	500
委託料(54歳以上)	150	100
委託料(54歳以上)	0	0
委託料(54歳以上)	444	384
委託料(54歳以上)	194	194
委託料(54歳以上)	40	0
委託料(54歳以上)	0	0
委託料(54歳以上)	100	70
委託料(54歳以上)	40	50
委託料(54歳以上)	30	30
委託料(54歳以上)	2,712	2,712
委託料(54歳以上)	1,880	1,880
委託料(54歳以上)	700	850
委託料(54歳以上)	10	10
委託料(54歳以上)	700	750
委託料(54歳以上)	100	100
委託料(54歳以上)	32	30
委託料(54歳以上)	50	50
委託料(54歳以上)	40	40
委託料(54歳以上)	50	50
委託料(54歳以上)	10	15
委託料(54歳以上)	0	0
委託料(54歳以上)	0	0
委託料(54歳以上)	100	200
委託料(54歳以上)	200	200
委託料(54歳以上)	0	0
委託料(54歳以上)	30	30
委託料(54歳以上)	50	50
委託料(54歳以上)	1,680	300
委託料(54歳以上)	2,000	0
委託料(54歳以上)	0	0
委託料(54歳以上)	0	0
委託料(54歳以上)	5,000	5,000

(参考資料)

一般社団法人 日本統計学会 2022年度 決算書(連結ベース) (2023年3月31日現在) (単位:千円)

債権対等表	借方	貸方	純資産
1. 債権の部	24,294,542	23,894,802	399,740
現金	24,294,542	23,894,802	399,740
債権	0	0	0
2. 負債の部	3,503,901	3,503,961	59,660
短期借入金	828,522	828,522	0
長期借入金	1,300,149	1,300,149	0
繰上返済金	34,238,182	34,469,653	231,471
ICP基金	11,278,157	11,278,853	696
小川基金	2,685,568	2,571,733	1,113,835
中川基金	96,892,602	93,788,209	3,104,393
特定資産	150,952,534	147,530,664	3,421,870
特定資産合計	150,952,534	147,530,664	3,421,870
純資産合計	175,247,578	174,259,969	1,017,609
純資産合計	175,247,578	174,259,969	1,017,609

(注) NSI基金はSI理事 社会記念事業基金
 ICP基金はICPセミナー・ウェブ・アウェア事業基金

- 科博士課程の設置に関する要望書の発行について
- ・京都大学経済研究所における共同利用・共同研究拠点認定要望書の発行について
- ・名古屋市立大学大学院データサイエンス研究科の設置に関する要望書の発行について

<審議事項>

審議事項なし

今後の予定

- 2024年3月8日（金）18：00
社員懇談会：オンライン開催
- 2024年3月9日（土）
第18回日本統計学会春季集会（成城大学）
- 2024年5月11日（土）13：00
理事会：開催形式未定

7. 社員懇談会報告（2024年3月8日開催）

一般社団法人 日本統計学会 社員懇談会

日時：2024年3月8日（金曜日）

午後6時00分～午後7時00分

開催形式：Zoom（ミーティングID: 810 6230 6303）

出席者：

会長：照井伸彦

代議員：會田雅人、青嶋誠、足立浩平、上野玄太、大森裕浩、川崎茂、川崎能典、栗原考次、西郷浩、清水誠、瀬尾隆、田畑耕治、椿広計、富澤貞男、中西寛子、樋口知之、廣瀬慧、南和宏、南美穂子、山下智志、美添泰人

（以上22名）

オブザーバー：小山慎介（庶務）、伴正隆（庶務）、吉田靖（会計）

報告事項（理事会報告）

1. 2024年度事業計画について

川崎理事長より、資料に基づき、2024年度事業計画について報告がなされた。

2. 2024年度予算について

川崎理事長より、資料に基づき、2024年度予算の報告がなされ、吉田会計理事により補足説明が行われた。

3. 日本科学技術連盟の賛助会員について

川崎理事長より、資料に基づき、一般財団法人日本科学技術連盟の賛助会員への入会について報告がなされた。

4. 会員の入退会

川崎理事長より、パスワード付きの配布資料に基づき、入退会希望者の報告がなされた。

5. その他

なし

報告事項（委員会報告）

1. 常設委員会における委員の追加について

川崎理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員の追加について報告された。

・企画・行事委員会

佐藤忠彦委員を追加（2024年2月17日付）

2. 第18回春季集会について

川崎理事長より、2024年3月9日（土）に成城大学（遠隔でのオンライン参加も可能）にて開催される第18回日本統計学会春季集会について説明がなされた。

3. 2024年度統計関連学会連合大会について

川崎理事長より、2024年9月1日（日）～5日（木）に、2024年度統計関連学会連合大会が東京理科大学神楽坂キャンパス（予定）にて開催される旨、報告された。

4. 日本統計学会各賞について

川崎会長より、資料に基づき、日本統計学会各賞の募集期間が2024年3月22日（金）までであることが報告された。

5. その他

なし

報告事項（その他）

1. 今後の日程

2024年3月9日（土）10：00

日本統計学会春季集会：成城大学（オンライン参加も可能）

2024年5月中

臨時社員総会：メールによる受賞者承認審議

2024年6月1日(土) 13:30

社員総会：開催形式未定

2024年9月1日(日)～5日(木)

統計関連学会連合大会：東京理科大学神楽坂キャンパス(予定)

2. その他

樋口代議員より、会報の電子化と、それに伴い減収が見込まれる広告収入の補完の必要性について提言があり、意見交換がなされた。

8. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を紹介いたします。

(1)氏名 (2)学位の名称 (3)取得大学 (4)論文題名 (5)主査または指導教員 (6)取得年月の順に掲載いたします。

博士論文

●(1)桃崎智隆(2)博士(理学)(3)東京理科大学(4)Indexes for the Degree of Departure from Models of Symmetry in Square Contingency Tables(5)田畑耕治(6)2024年3月

●(1)橋詰公一(2)博士(工学)(3)東京理科大学(4)Modified Copula-type Model for Dose-Finding in Drug Combination Clinical Trials(5)寒水孝司(6)2023年9月

●(1)松本知己(2)博士(工学)(3)奈良先端科学技術大学院大学(4)Bayesian Empirical Analysis in Retail and Digital Media: Data Scientific Applications in Management and Industrial Organization(5)金澤雄一郎(6)2024年3月

修士論文

●(1)巖名佑務(2)修士(理学)(3)筑波大学(4)A Correlation Test for High-Dimensional Data under the Strongly Spiked Eigenvalue Model(5)青嶋誠(6)2024年3月

●(1)崎裕登(2)修士(理学)(3)筑波大学(4)高次元共分散行列の逆行列の推定法(5)青嶋誠(6)2024年3月

●(1)丸谷陸(2)修士(理学)(3)筑波大学(4)自動変数選択法を用いた高次元平均ベクトルの一致推定について(5)青嶋誠(6)2024年3月

●(1)武藤睦祥(2)修士(理学)(3)筑波大学(4)高次元における因子負荷量行列の推定(5)矢田和善(6)2024年3月

●(1)川添智元(2)修士(情報学)(3)大阪工業大学(4)社会経済的要因が合計特殊出生率に与える因果性の実証分析(5)濱田悦生(6)2024年3月

●(1)文翔(2)修士(理学)(3)東京理科大学(4)Sampling from general posterior via robust divergences for von Mises-Fisher distribution(5)田畑耕治(6)2024年3月

●(1)川満豪(2)修士(理学)(3)東京理科大学(4)A measure of departure from symmetry via cosine similarity for contingency tables(5)田畑耕治(6)2024年3月

●(1)清原礼温(2)修士(理学)(3)東京理科大学(4)Measures of departure from row odds symmetry and row marginal symmetry in square contingency tables(5)田畑耕治(6)2024年3月

●(1)菊地達朗(2)修士(理学)(3)東京理科大学(4)Cumulative polynomial columns-parameter symmetry model and its decomposition for square contingency tables with ordered categories(5)安藤宗司(6)2024年3月

●(1)近藤学(2)修士(理学)(3)東京理科大学(4)Selection method using generalized PRV measure of genes associated with 5-year survival for lung adenocarcinoma patients(5)安藤宗司(6)2024年3月

●(1)泗水偉吹(2)修士(理学)(3)東京理科大学(4)Extended second-order moment symmetry model and decomposition of symmetry for square contingency

tables (5) 安藤宗司 (6) 2024年3月

● (1) 黄江一輝 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) がん第1相臨床試験における2剤併用療法の毒性発現確率のシナリオ生成と用量探索法の性能評価 (5) 寒水孝司 (6) 2024年3月

● (1) 奥田守 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 日本プロ野球における球種と投手成績による先発投手の分類 (5) 寒水孝司 (6) 2024年3月

● (1) 熊倉矛騎 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) がん治療の効果の個体差を想定した治療効果の発現開始区間の推定 (5) 寒水孝司 (6) 2024年3月

● (1) 小林俊哉 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 生活習慣病予備群の歯周病が肥満と糖尿病の発症に与える影響 (5) 寒水孝司 (6) 2024年3月

● (1) 佐澤真比呂 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 事象時間データ解析と多状態モデルによる解析の対応関係 (5) 寒水孝司 (6) 2024年3月

● (1) 諏訪拓也 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学

(4) 主要評価変数が2値変数の場合の臨床試験の標本サイズ再設計 (5) 寒水孝司 (6) 2024年3月

● (1) 高橋凌太郎 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 多次元多標本ポアソンモデルにおけるすべての平均に関するゲートキーピング法 (5) 白石高章 (6) 2024年2月

● (1) 伊藤孝哉 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) 深層学習による楽曲の分類に関する研究 (5) 松田眞一 (6) 2024年2月

● (1) 吉田裕哉 (2) 修士 (数理科学) (3) 南山大学 (4) SN比の信頼区間の導出に関する支援ソフトの拡張 (5) 松田眞一 (6) 2024年2月

● (1) 内田優人 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 欠損値を含む多変量時系列データの因子分析 (5) 廣瀬慧 (6) 2024年2月

● (1) 前田翔太 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 説明変数・目的変数ともに欠測がある多変量重回帰モデルの欠測補完とスパース推定 (5) 廣瀬慧 (6) 2024年2月

9. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2024年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。(https://www.jss.gr.jp/fee/).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

入会承認

新井崇弘, 遠藤明倫, 加藤隆太, 佐々木隆宏, 竹下和慶, 田島友祐, 蒔苗永, 吉田司 (敬称略)

退会承認

安芸重雄, 石田基広, 板谷智也, 井部誠久, 内田潔人, 大月英明, 尾島宗真, 貝淵響, 北村祐, 越水孝, 城田慎一郎, 菅野利晴, 杉山健二, 田中潔, 千木良弘朗, 豊福義彦, 長谷文雄, 芳賀寛, 萩野篤司, 羽森茂之, 林等, 村田渉, 山田真司, 吉野克文, 米谷悠 (敬称略)

現在の会員数（2024年2月17日）

名誉会員	12名
正会員	1,379名
準会員	8名

学生会員	67名
総計	1,466名
賛助会員	17法人
団体会員	8団体

10. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。
- 博士論文・修士論文の紹介
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。
- 求人案内（教員公募など）
- 研究集会案内
- 新刊紹介
著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。
- 会員活動紹介（叙勲・受章、各種受賞等）
できるだけ e-mail による投稿、もしくは、文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒100-8901

東京都千代田区霞が関1丁目3番1号
経済産業省別館11階

独立行政法人経済産業研究所 小西葉子 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL:
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp